

④被災地域の再生・活性化に向けた取組

仙台うみの杜水族館開発プロジェクト

(三井住友銀行)

【概要】

東日本大震災後に仙台で水族館開発のプロジェクトを進める中、三井住友銀行は地元金融機関と協調し、案件コーディネイトや行政・地元との調整を行い、ファイナンスを組成。
被災地内外の金融機関、事業会社、自治体等と連携し、復興を象徴する水族館として、「仙台うみの杜水族館」が平成27年7月にオープン。

背景と経緯

老朽化したマリニピア松島水族館は、震災以前から仙台へ移転しリニューアルを目指していたが、調整が進まず断念していた。
震災後、復興支援を目的に三井物産が中心となり、水族館運営ノウハウを持つ横浜八景島、仙台の企業であるカメイ・ユアテック・河北新報社・仙台三越の6社が共同出資し、仙台水族館開発(株)を設立。仙台市から土地を賃借し、約65億円をかけて建設し、マリニピア松島水族館の飼育員と生物を受け入れ、仙台港背後地に賑わいを創出する復興のシンボルとして、平成27年7月1日に「仙台うみの杜水族館」をオープンさせるプロジェクトを進めた。

具体的な取組

三井住友銀行は、案件生成段階からプロジェクトに参画し、三井物産や地元金融機関と協調し、案件コーディネイトや行政・地元との調整を行い、ファイナンスを組成した。
総事業費約65億円を関係企業からの出資、民間都市開発推進機構の優先株、地元地域金融機関が参画する協調融資にて調達した。

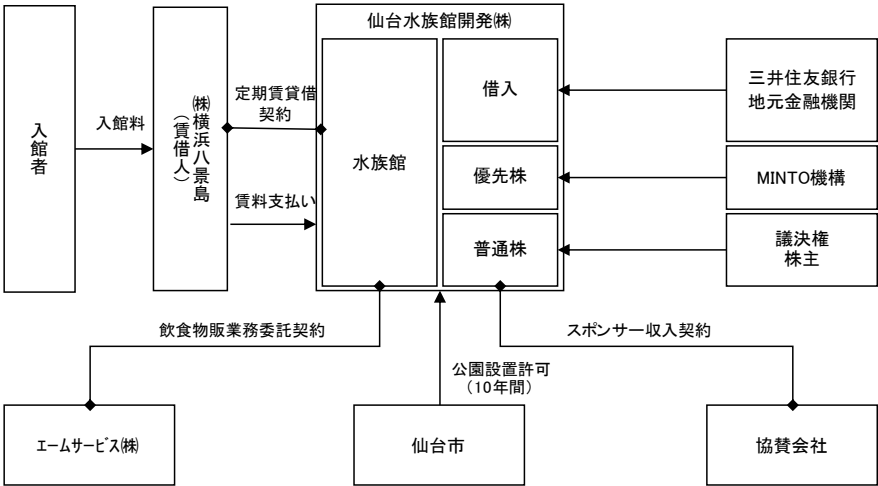


図 スキーム図

取組の成果

平成27年7月1日に水族館がオープンした。豊かな日本の海、自然環境を体感できる大水槽や川の水槽をはじめ、生きものを通じて世界との絆を体感出来るゾーン、海の動物たちによる東北最大級のパフォーマンス、ペンギンやアシカ等とのふれあいによる癒し体験など、たくさんの魅力的なコンテンツを提供する施設となった。

年間入館者見込数は、開業初年度100万人。安定期85万人を見込んでいたところ、平成27年11月16日に開業からの入館者数が100万人を突破した。

被災地内外の金融機関のみならず、関係する事業会社、自治体等と調整し、地域の活性化につながる大型プロジェクトを完遂することができた。



今後の課題

水族館を核に仙台港背後地全体の誘客アップに向け、交通アクセスの改善や観光・商業拠点の整備を検討している。



Point | 支援実施のポイント／横展開にあたっての示唆

支援実施のポイント① 被災地内外の企業による共同プロジェクト

支援実施のポイント② 仙台市の協力や民都機構の制度活用等、公共との連携

支援実施のポイント③ メガバンクと地元金融機関との協調融資